

奥村憲照先生書

◆上下左右の 関係 下凸形	左凸形 偏が小の時 は上部をそ ろえる	右凸形 旁が小の時 はやや下部 につける	偏は右上り 旁は平らに
冒 習	吸 理	和 取	村 組
旁を少し 下げる	偏と旁同じ 大きさ	偏せまく 旁ひろく	偏ひろく 旁せまく
幼 即	願 敬	彼 險	則 引

〔出品例〕

左筆順文は	和	吸	冒
	取	理	習
段・単位			
	願	幼	村
氏名	敬	即	組
		則	彼
		引	險

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期すため、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績をご記入くださるようお願いいたします。

◎ペン字の基本を四カ月に分けて学びます。お手本は、奥村憲照先生書「ペン字の手ほどき」から掲載しました。

◎毛筆での出品も、もちろん可能です。用具は何であれ「形のとり方」は共通です。

◎字形を美しく整えるために、古くから上のような基本法則があります。これらを身につけておけば、どの漢字でもバランスよく書けるようになります。基本法則を意識しながら繰り返し学んで、体に覚えこませましょう。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した四行を書いて下さい。

▼硬筆部 一般部級位用紙に上図のよう
うに書いて下さい。

※用具は自由(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に四行に書いて下さい。

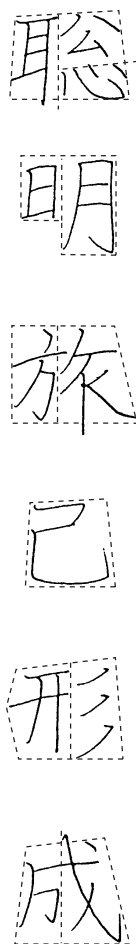
▼出品制限の対象とはしませんが、どなたでも出品できますが、硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼優秀作品数点を、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

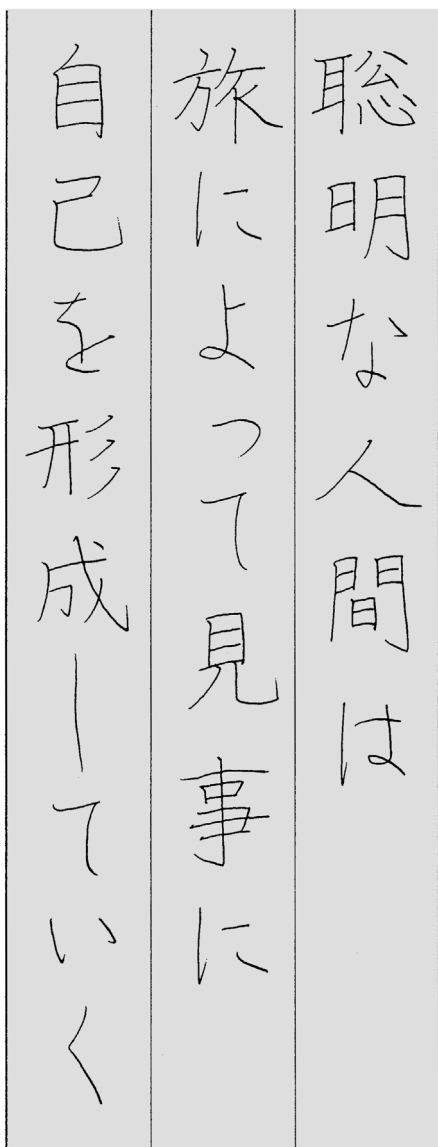
新入から1級まで

〔解説〕



楷書は文字の組立の基礎ですから一線一画大切に運ペンする。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

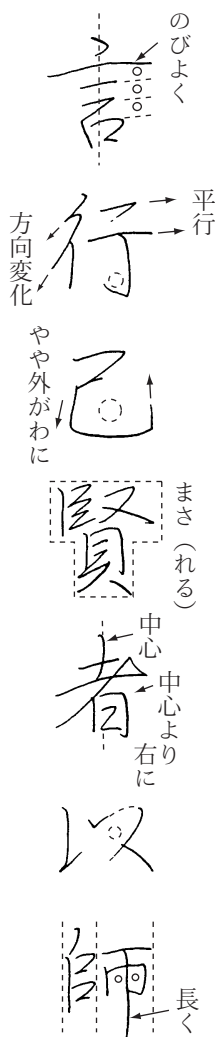


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★その…（書体＝行書）

山鹿素行（二三〇八五）

江戸前期の儒学者・兵学者

課題文に続いて「何ぞ常の師有らんや。天地はれ師なり、事物はれ師なり」と述べています。

学ぶべきものは、人物に限らず自分のまわりにいくらでもあります。謙虚な姿勢で学び続けたいものです。

◆5月課題予告（楷書）

千丈の堤も

蟻穴より崩るる

韓非子

★聡明な…（書体＝楷書）

ゲーテ（二四九〇八三）

ドイツの作家

小説『ウィルムヘルム・マイスターの修業時代』の中のことば。主人公は世の中を知り自分を見つめる旅にでて、様々な経験をしながら成長していきます。ゲーテにとって聡明な人間とは、書物からではなく、経験から自己を形成し、自分のなすべき仕事を知っている人間なのです。

◆5月課題予告（行草または草書）

戦いて勝つは易く

守りて勝つは難し

呉起

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

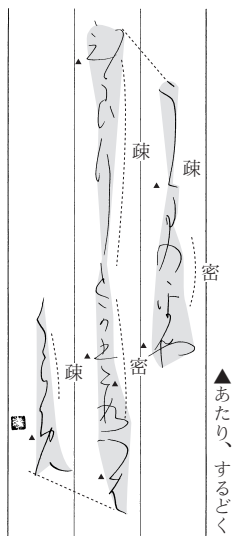
一般部かな課題

締切り 4月24日(必着)

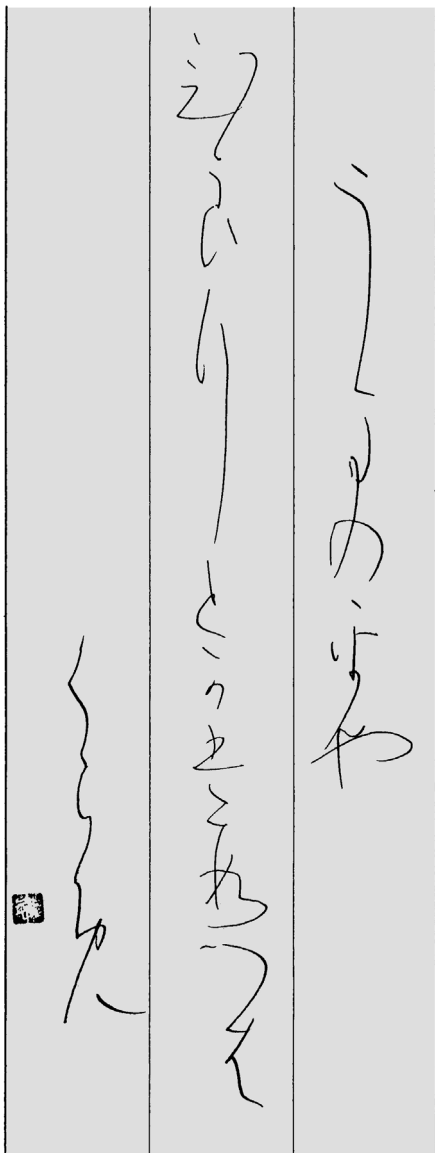
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



馬の尾やひらりとかはす乙鳥

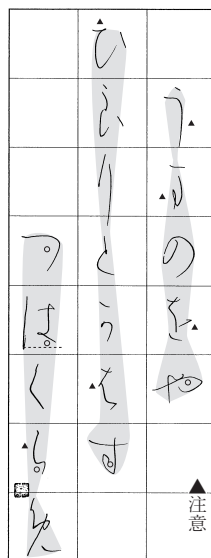


萩 田 蒼 仙 書

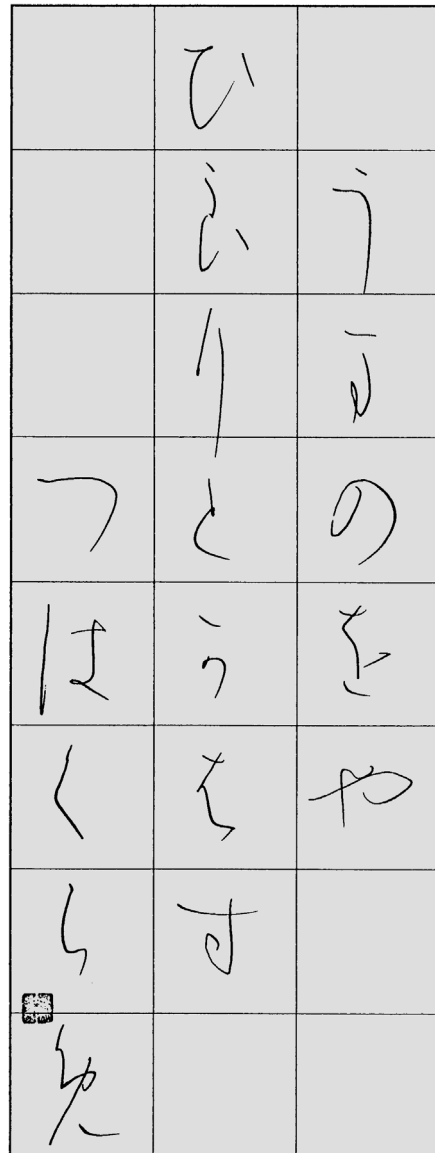
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



馬の尾やひらりとかはす乙鳥



萩 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

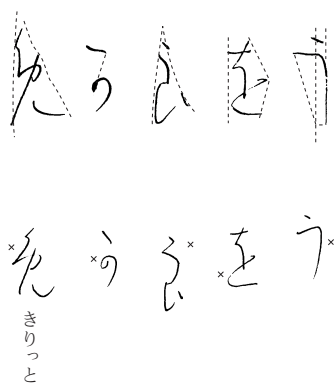
◆5月課題予告

押されつつ渡るも楽し花の橋

(手古奈)

同じです。

〔段位ワン・ヒント〕
広く伸びやかな字形の次には引き締めていきます。字間もそのようにしていきます。横画が多い隣の行は、縦画を意識しています。毛筆の条幅と同じような法則なのです。常に隣の行を意識して異なった表現をして景色づくりをしています。その方法が実用書と違うところです。軽く持って書くことは硬毛同じです。



きりっと

見ましよう。大切な上達方法です。

〔級位ワン・ヒント〕
かなの形は自由に見えますが、どんなにデフォルメしても整った形と崩れた形があります。その見分けが困難です。すぐれた仮名専門の先生に見て頂くことかと思ひます。せめてどんな漢字からどのように形が推移したのか、かな字典(小さくて安いので結構)を見ましよう。大切な上達方法です。

〔句意〕

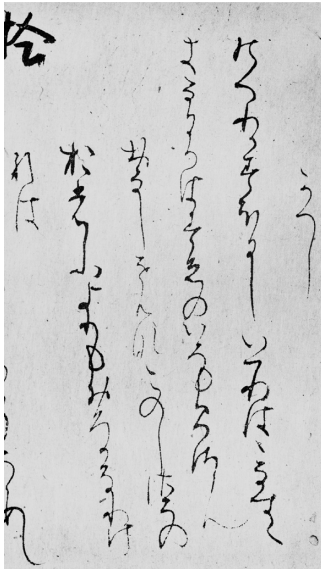
道ばたにつながれた馬が蠅を追って大きく尾を振っている。地を擦るように飛んで来た燕が一瞬白い腹をみせて反転し、馬の尾をかわした。

馬の尾やひらりとかはす乙鳥

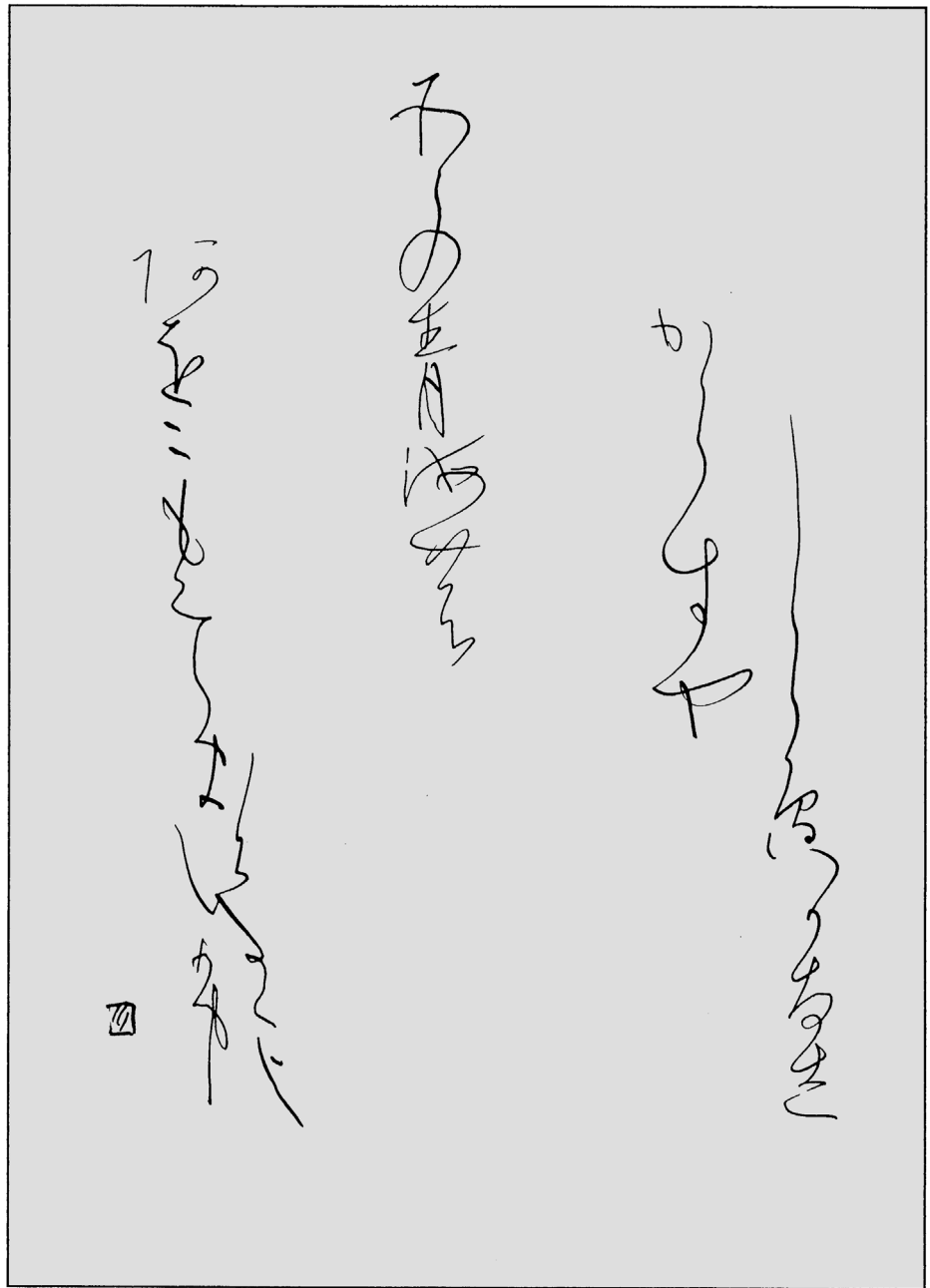
(正岡子規)

〔古筆参考〕

一条摂政集



かなの能
 支なべ
 奈爾わ
 可か
 へし
 春本
 爾
 かなはす
 春無
 那のい
 見ろ
 佐も
 無み
 佐ざ
 佐ら
 無む
 無
 かなは
 可お
 奈ふ
 利より
 利も
 可お
 奈ろ
 利可
 利な
 利け
 かなは
 可お
 奈ふ
 利より
 利も
 可お
 奈ろ
 利可
 利な
 利け



締切り 四月二十四日(必着)

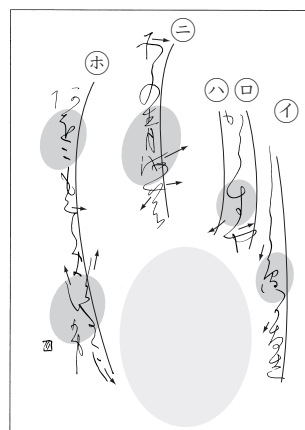
築瀬舟香書

しろハ可奈志
 白鳥はかなしからずや空の青海の青
 にも染まらずただよふ

〔歌意〕 白い鳥は悲しくはないのだろ
 うか。あの広い空の青にも、深い海の
 青にも染まることなく、空と海の一面
 の青の中を、ただ一羽真白い姿で漂っ
 ている。

〔出典〕 名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、④と⑤、④と⑥、それぞれ呼吸。
- 墨の動きに注意。
- 大きな間↓余白。
- 方向大切↓余白に働きかける。

「一条摂政集」について(三)

気取りのない自然な姿の一条摂政集
 は、当時の女性に人気があった歌物語
 であつたと思われる：と榎倉香邨先生
 は著書の中で述べておられます。

漢字が字母でありながら単純形の
 「かな」の姿になり、やがて「伊勢物語」
 などの歌物語へと発展していくのだと
 書いておられます。

◆5月課題予告

をちこちに啼き移りゆく筒鳥の
 さびしき声は谷にまよへり

(若山牧水)

締切り 4月24日(必着)

富山のチューリップ祭りに行って
来ました。百万本の色取りどりの
花が咲き誇りとても感動します。
五月上旬まで、多数のイベントが
企画されていてお勧めのスポット
です。ぜひ出掛けてみて下さい。

富山のチューリップ祭りに行って
来ました。百万本の色取りどりの
花が咲き誇りとても感動します。
五月上旬まで、多数のイベントが
企画されていてお勧めのスポット
です。ぜひ出掛けてみて下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

東京都心部を環状に走る山手線は、
大正14年4月に運転を開始した。

福井県越前市 氏 名

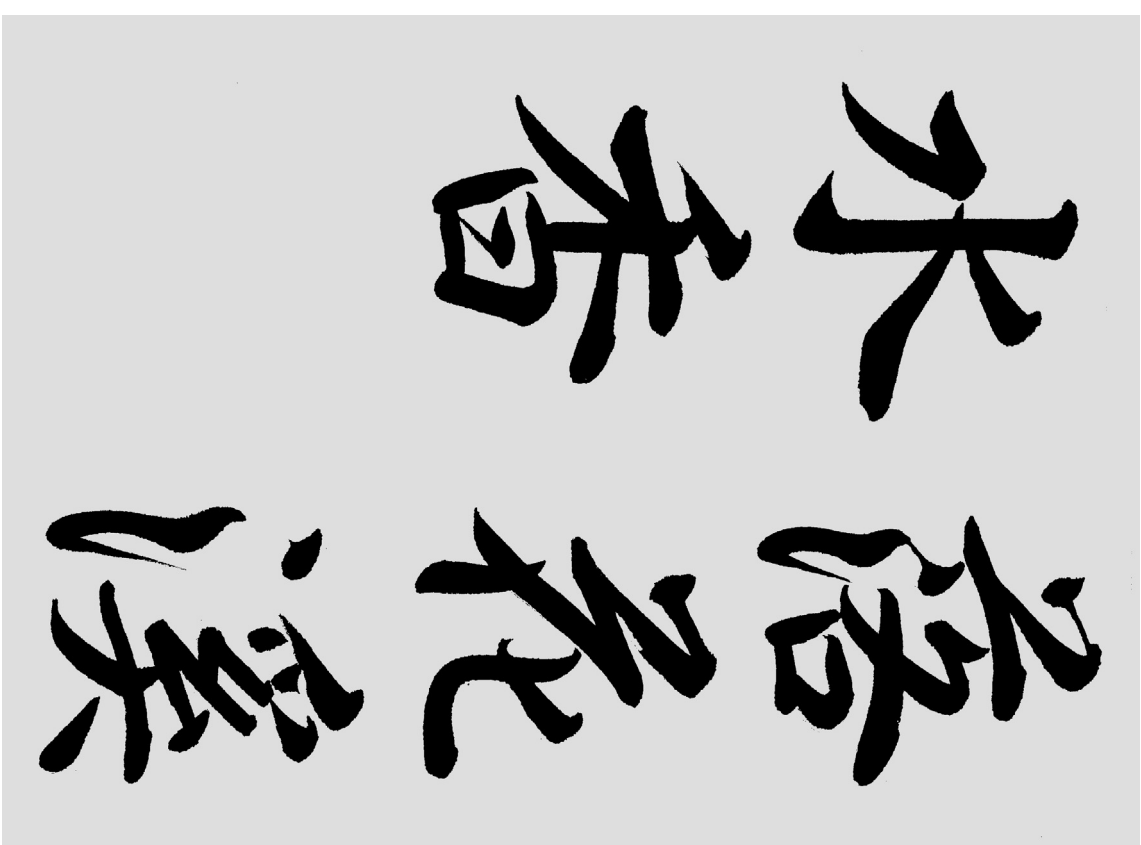
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月24日 (必着)



【出典】孔子廟堂碑（626～633） 【筆者】虞世南（558～638）
 【読み】興業を（扶く）。神謀は測られず、



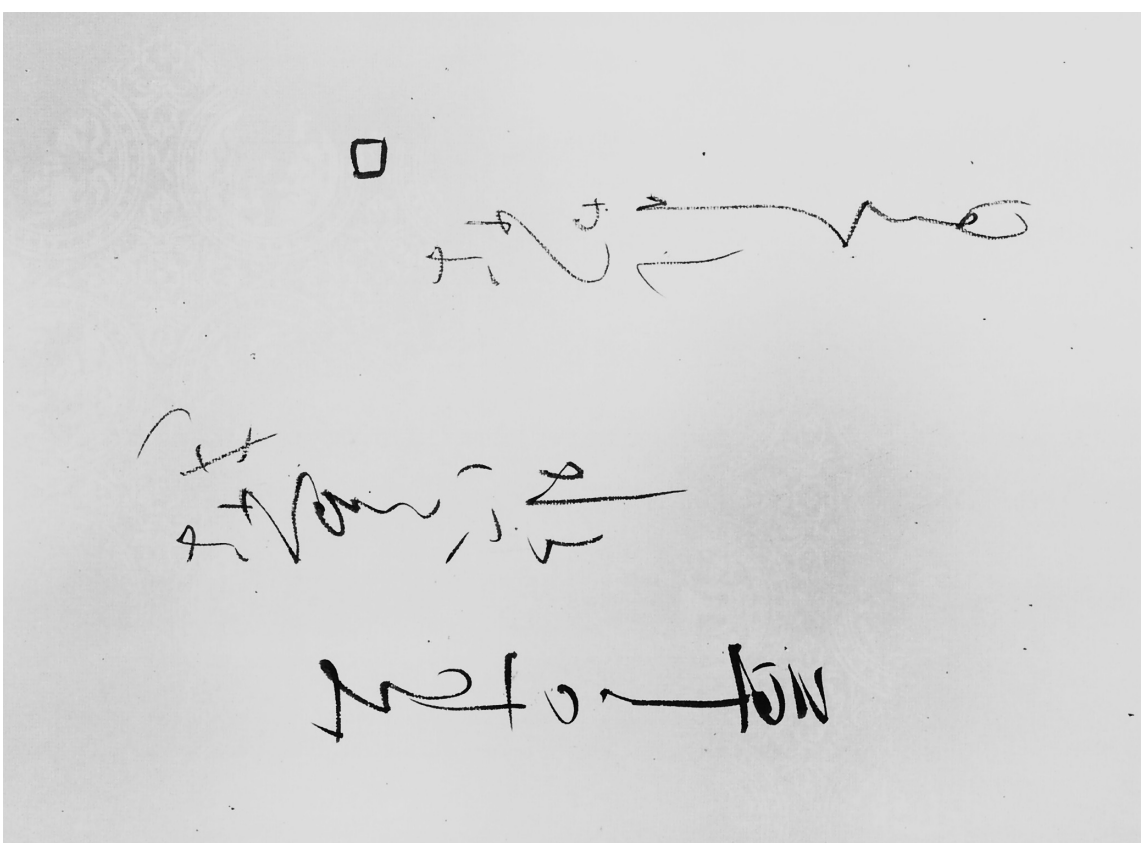
新入から1級まで（行書）
 澤 静 雨
 さわ せい う
 書 書 書

【読み】落花溪水香し
 【大意】溪流に散った花々がにおわんばかりだ。

一般部毛筆かな課題

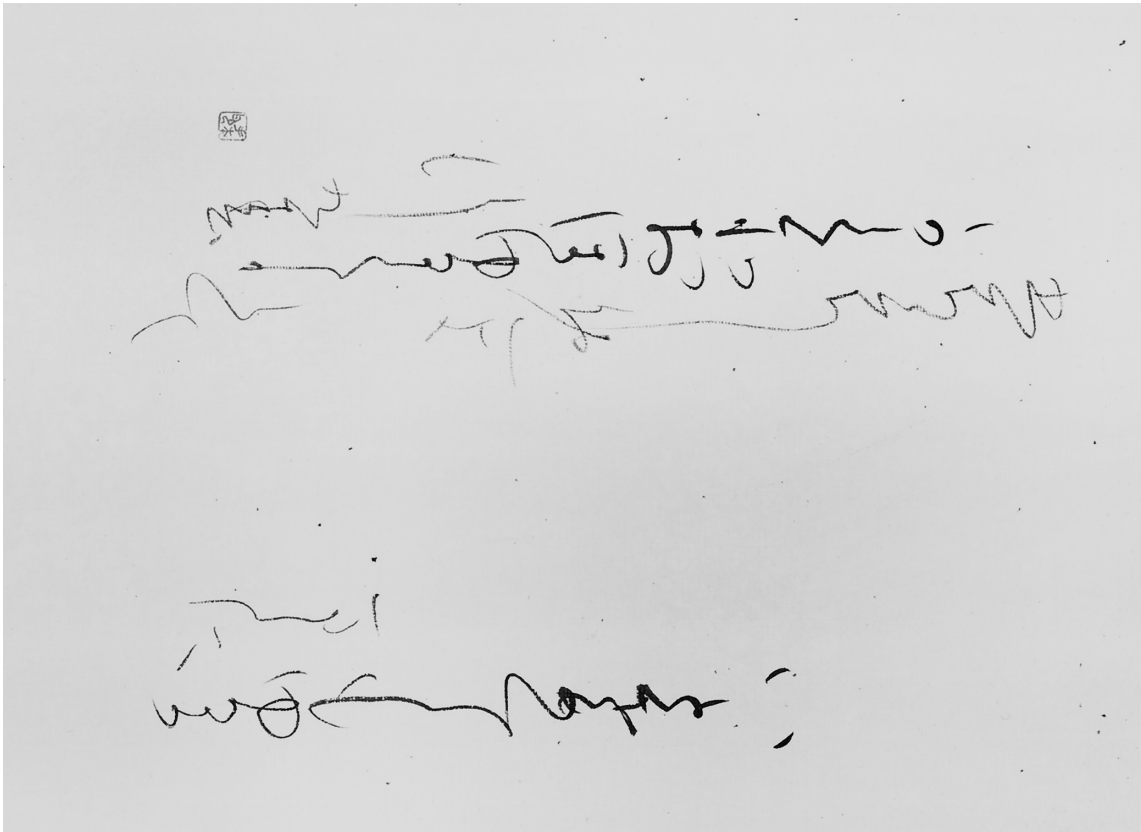
締切り 4月24日 (必着)

新入から1級まで



浅井機山先生書

準初段から師範まで



いとせめてもゆるがままにもしめよ
斯くぞ覚ゆる暮れて行く春

〔出典〕 与謝野晶子

〔歌意〕 春も逝こうとしている。わが青春の日もこのように過ぎ去ってしまうのか。ああ何としてでもわが情熱を燃えあがらせよう。

〔出典〕 与謝無村

〔句意〕 「霞」「野望」の前書がある。夕霞の草原を、川が音もなくゆたかにうねり流れて行く。

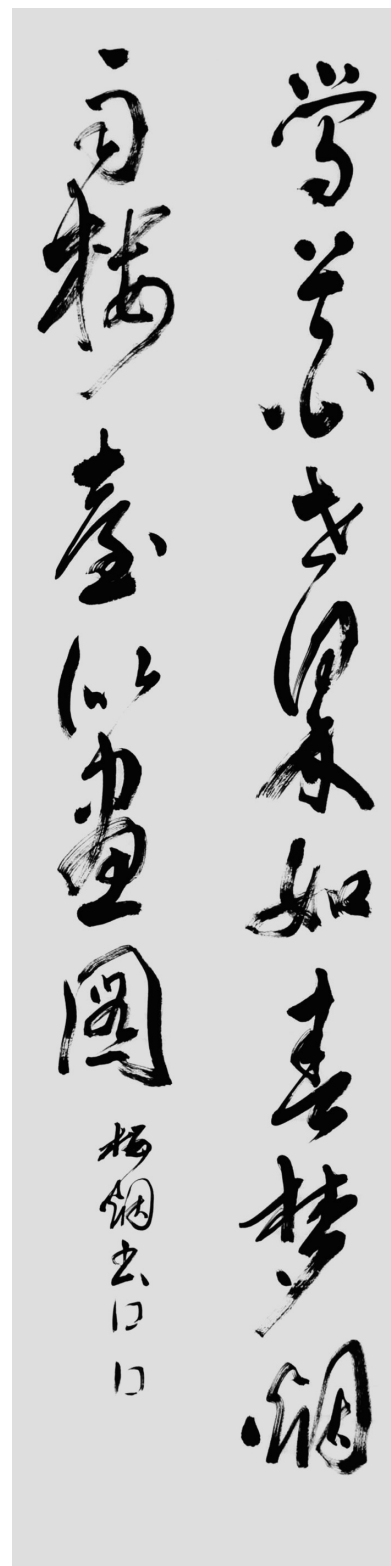
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 四月二十四日(必着)

半切(一三六cm×三五cm)

新井清泉書



鶯花世界如春夢
烟雨樓臺似画图
張翥

〔大意〕うぐいす鳴き花咲く春はこの世の夢のように過ぎ易く、もやの中に在る楼台は水墨の絵に似ている。

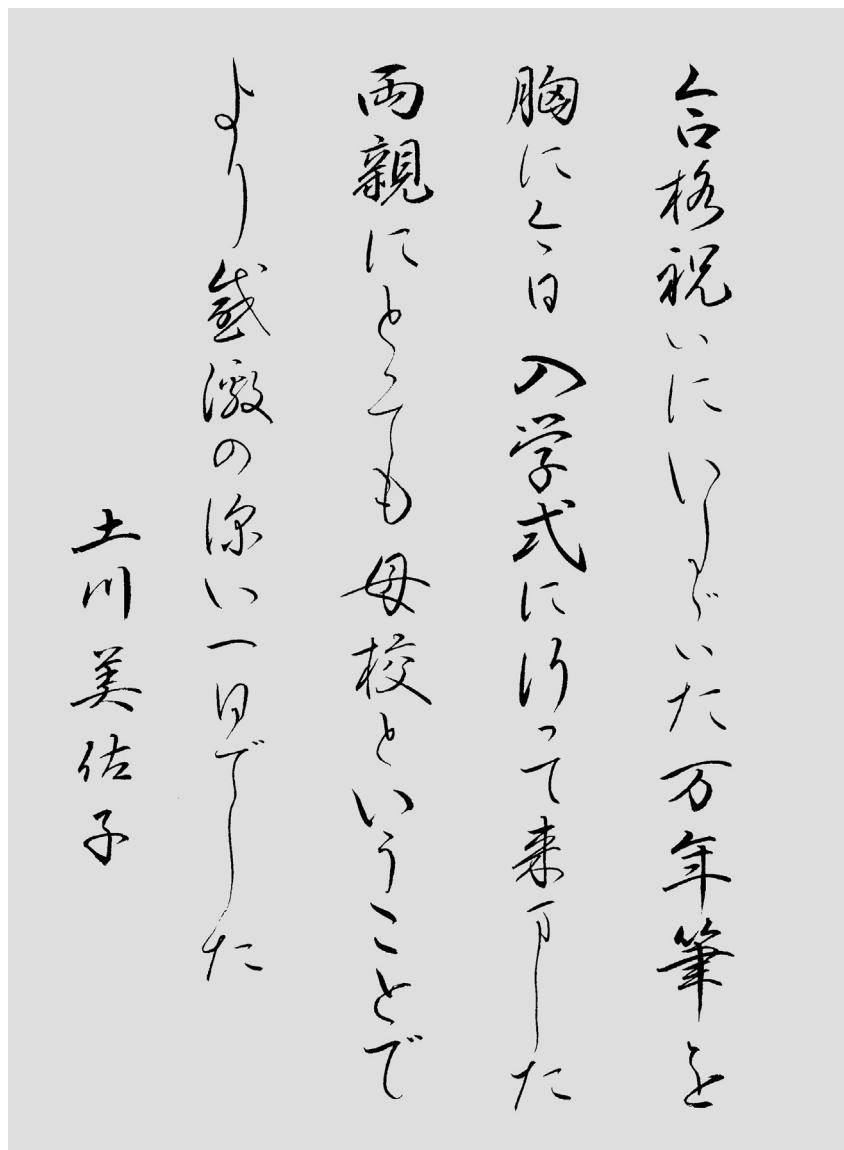
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開(角川書道字典より)



〔古典字例〕

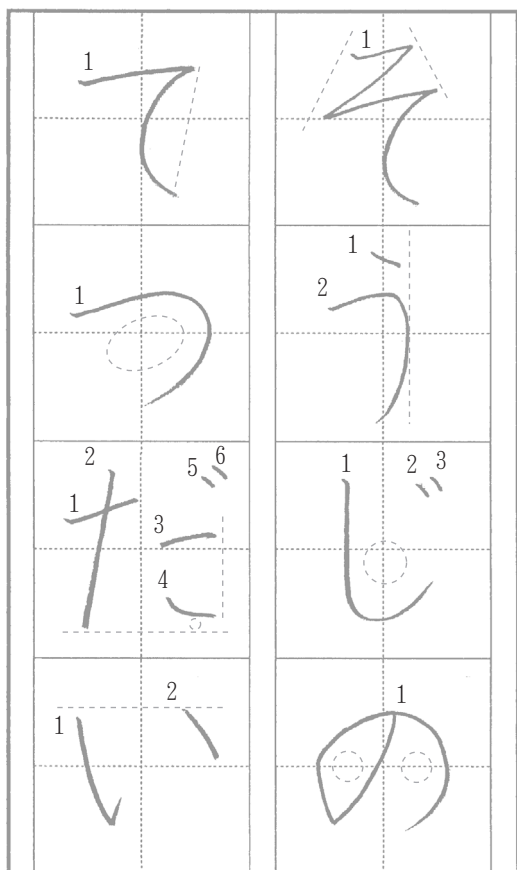
書 兆 春 宮 大



半紙(334mm×240mm)

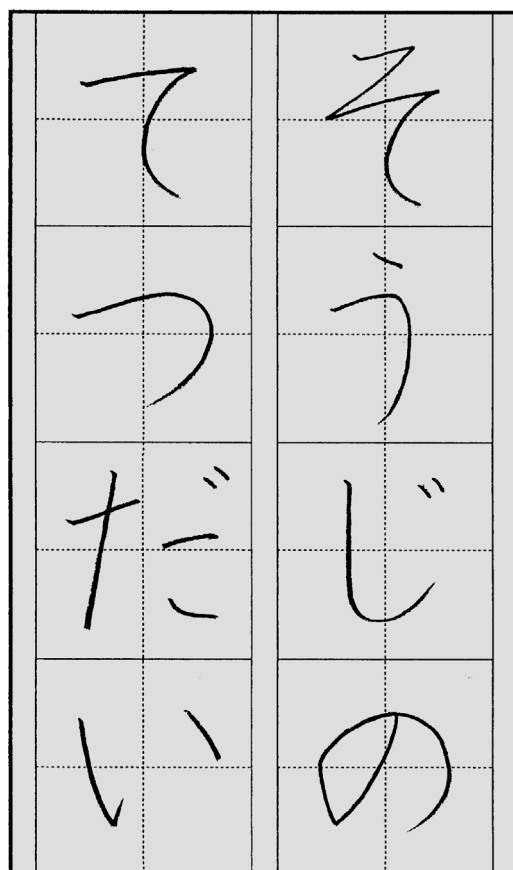
- 合格祝いにいたいた万年筆を胸に今日入学式に行ってきた両親にとっても母校ということにより感激の深い一日でした
- 印で墨つぎしました。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



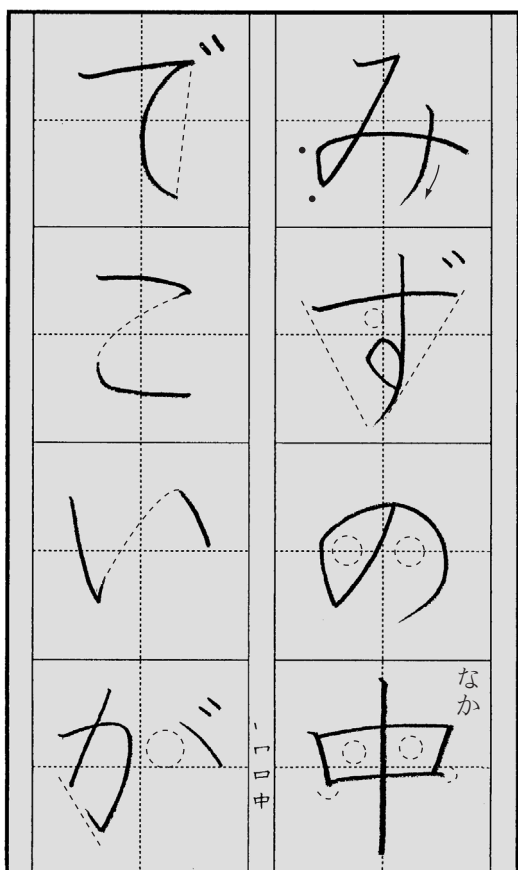
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

学 ^{ガク}	ダム
に	ム
行 ^い	を
く	見 ^{ケン}

新入1級

見	く	休
学	で	日
に	ダ	は
行	ム	か
く	を	ぞ

新入1級

新小二年

準初段以上

人 ^{ジン}	飲 ^の
に	み
配 ^{くば}	物 ^{もの}
る	友 ^{ユウ}

新入1級

た	み	用
ち	物	意
に	を	し
配	友	た
る	人	飲

新入1級

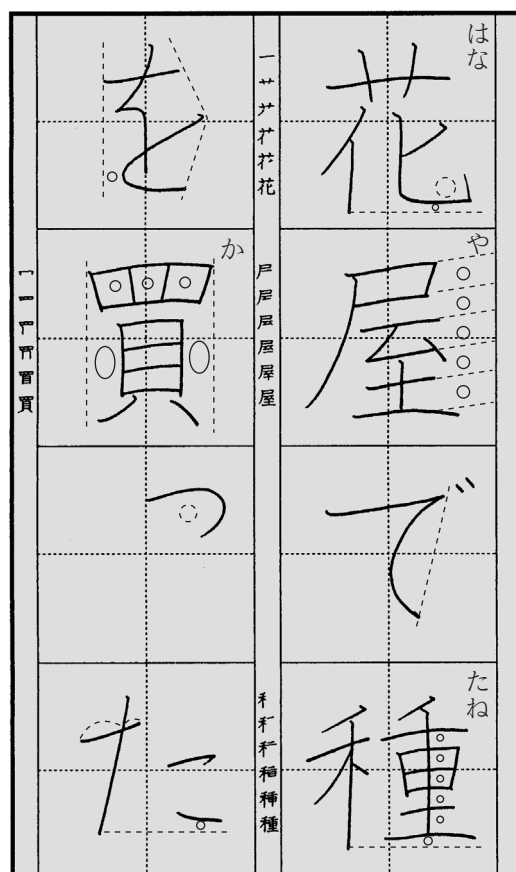
新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

準初段以上



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、いじけないよう、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法が続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由（黒色に限る）

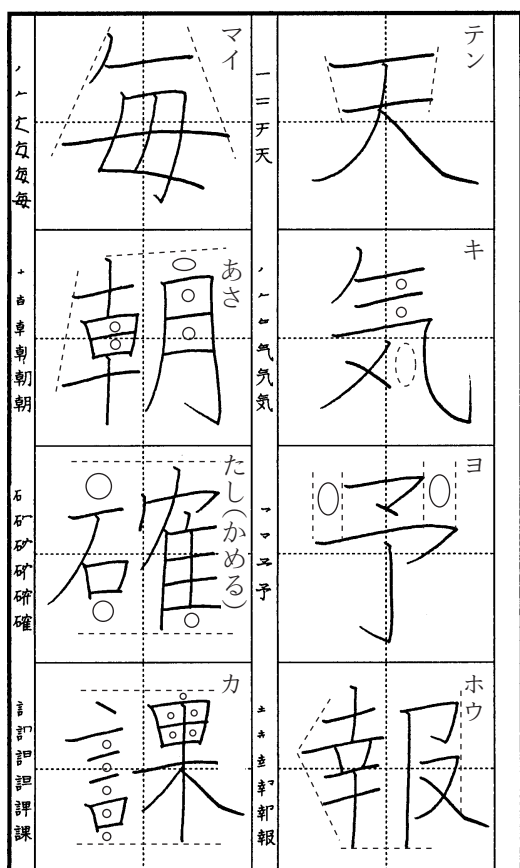
新小五年

(全員)



〔訂正〕三月号の課題予告で、「確める」とありましたが、送り仮名の本則は右の手本どおりです。訂正します。

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 尾郷翠光書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

定	眼
期	病
的	院
調	視

解説(よく見て習いましょう)

的	視	眼
に	力	科
調	を	病
べ	定	院
る	期	で

新小六年

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

ら	訪	先
緊	問	生
張	に	の
す	朝	家
る	か	庭

新中二・三年(行書)

雄	見	展
大	下	望
な	ろ	台
景	し	か
色	た	ら

新中一年(行書)



こどぎのひろば



幼年

し	た	も	に
よ	い	じ	ほ
う	せ	を	ん
	つ		の
	に		

新小三年

は	書	し	字
ね	き	っ	を
や	じ	か	か
止	ゅ	こ	う
め	ん	う	
	も		

新小六年

正	日	す	書
・	常	べ	く
速	の	て	こ
・	文	そ	と
美	字	ろ	が
	を	っ	目
		た	標

新小一年

う	か	な	一
つ	け	ま	ね
く	る	え	ん
し	ね	を	せ
く			い

新小四年

気	書	て	美
持	いた	い	し
ち	た	ね	い
を	文	い	ね
こ	字	に	
め	は		
て			

新中一年 (楷書)

魅	書	人	こ
力	く	間	と
あ	た	性	が
る	め	を	大
字	に	高	切
を	は	め	で
		る	す

新小二年

正	も	一	て
し	ち	字	い
い	か	ず	ね
し	た	つ	い
せ	た		に
いと			

新小五年

心	手	深	伝
の	紙	い	わ
こ	か	愛	っ
も	ら	情	て
っ	は	が	き
た			ま
			す

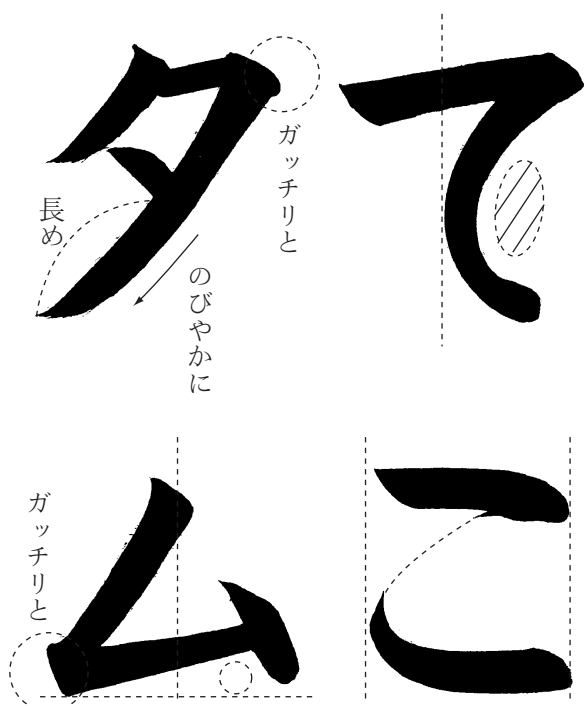
新中二・三年 (行書)

よ	将	先	私
く	来	生	の
勉	は	に	夢
強	書	な	で
し	道	る	す
て	の	の	
		が	

▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましよう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。

幼年／小二年
玉樹小
華書





小三、小五年

水野香竹書

中二・三
家庭

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六
眼科

望 眼科
家庭 展

連続する線をのびやかに
とめ
筆順正しく
長く

中一
展望